

第1回 日進市地域支え合い体制づくり検討委員会 議事録

日 時 平成23年11月16日(水) 午後1時30分～3時25分
場 所 日進市役所 第5会議室
出席者 石井好恵 大須賀恵子 大橋儒郁 数井美津子 金山和広 小坂浩和
鈴木章夫 谷口節子 萩野光枝 福安淳也 松嶋輝信 村瀬公一
保竹優宏
欠席者 池田和正 小出哲次郎 松島寿 森道成
事務局 <福祉部> 加藤 山中
<高齢福祉課> 近藤 小塚 菅野 安藤
傍聴の可否 可
傍聴の有無 無
次 第 1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 委員長の選任および副委員長の指名
4. 議事
日進市地域支え合い体制づくり事業の取り組みについて
5. その他

(議事要旨)

事務局 1 開会
・あいさつ(福祉部長)
・委嘱書の交付
2 委員、事務局の紹介
3 委員長、副委員長の選任について
委 員 医師会の金山先生を委員長に推薦したい。
(拍手多数)
事務局 金山委員に委員長をお願いします。
副委員長の選任は、要綱に基づき委員長からご指名願います。
委員長 村瀬委員を副委員長に指名したい。
(拍手多数)
事務局 議事の取り回しは、金山委員長にお願いします。
委員長 「4 議事」に入ります。はじめに、昨年度取り組んだ認知症地域資源活用モデル事業の取り組みをまとめたVTRをご覧ください。
(VTR)
委員長 引き続き、事務局より説明願います。
事務局 (資料に基づき説明)
委員長 ご発言をお願いします。
委 員 長 委員会は、どの程度の検討を行う場と考えればよいか。
事務局 地域にいる自助や公助からもれている方について、具体的にどんな方が困っているのか、それを支援する取り組みをご発言いただいたり、全国の事例を勉強しながら支援のあり方を考えたりする場と考える。今年度は研修会を催して先進地域の取り組み事例を聞き、それをふまえて第2回委員会に繋げたい。単年度で支え合い体制の姿を描くのは難しいので、委員会は来年度も続けたいが、この形でいいのか、あるいは他にいい手法があるのかなどご意見いただき、課題を探りながら次年度へと進めていきたい。

- 委員 資料には自助の中に家族・親族・友だちとあるが、家族の支援はまだしも親族・友だちを含むのはどういうことか。
- 事務局 例えばおひとり暮らしの高齢者で、高い位置にある電球の交換は難しいが、もし近所に家族や友だちがいれば頼んで解決できるということを含めて自助とし、公助とは介護認定を受けてヘルパーの訪問があれば解決できるということ、また介護認定されていない、家族・親族もいないおひとり暮らしの方にはNPOや団体に提供していただくワンコインのサービスなど、自助や公助に代わる新たな生活支援のしくみが必要であるとイメージして共助と示した。
- 委員 介護予防の段階で自助努力をどう働きかけていくか、問題意識を持っている。
- 事務局 健康づくりや介護予防は自分のこと、自助と考えるが、例えばにしん体操を地域で一緒にやるクラブを作るのも共助の一環で、自分たちのやれることを探り、支え合う関係の中で実践できるといい。昨年は認知症を中心に考えたが、地域には複合的な課題を抱えた方もおり、行政には見えにくい、具体的な課題や支援の可能性についてぜひお聞かせいただきたい。
- 委員長 支え合い体制づくりの市の公募による補助事業に取り組んでおられる、社会福祉法人ポレポレの石井委員よりご報告願います。
- 委員 (追加資料を配布)
- 昨年、当法人が社会福祉法人の認可を受け、五色園に拠点を構えたが、高齢化率の高い地域であったことも意味があると思ひ、補助事業として引き売り隊に取り組む結論に達した。
- 区内に店がないため、車がなく足の確保が困難な人の多くが日常の買い物に困っており、実際にバスで買い物に行く方を何人も見かけたり、車に乗れなくなると利便のいいまちへ転居する人もいると聞く。これを何とか解決しなければとの思いは地域の方に賛同され、参考になるお話を数多く聞くとともに、是非お手伝いしたいと多くの方々に賛同され、ご意見を伺ったうえで実践したいので、今は情報収集するため要望をお聞きしている。
- また五色園の拠点でも新たな取り組みを計画しており、電球一つ取り替えるのに苦労している人と、お手伝いできる人とをつなぐ地域の便利屋をやってはどうかとの案も上がっている。
- 事業を引き売りとしたが、それだけでなく地域全体を元気にすることを目的として、住人同士のネットワーク構築を目指しているが、具体化するためには話し合いを重ね、地域の自分たちのことと認識して参加いただけるよう働きかけねばならない。3月までを準備期間とし、4月から実際に取り組みを始めたい。
- 委員長 同様の取り組みが全市的に広がっていくといい。
- 委員 皆さんの声を具体化していく方法に工夫が必要と思っている。
- 委員長 引きこもりのおひとり暮らしの人には、気分が滅入って自分から何かする意欲のない方もおられるが、引き売り隊の感触はいかがか。
- 委員 コーディネーターには、戸建ての住宅地で長屋と違って各々が中に入り込んで生活されているため、センスある提案がなければ外に出てきてもらうのは難しいとアドバイスいただいた。製品の中身はいいが、梱包が下手では魅力がなく売れないとも言われたが、企画している月1回のイベントでも、色づかいやセンスのいい空間という点に気を配るとともに、毎回必ず決まった定番の催しを継続していくなど、何かがないと来てもらえない。センスという面では、まだまだ不十分と感じている。
- 委員 以前からエコサポートで五色園に関わっており、高齢化率の特に高い一丁目は隣近所の付き合いが希薄な雰囲気であるが、自分たちが年を取って危機感を持つ

ているため、継続によって外に出てこられる可能性はある。交通の便が悪いところであるため、こちらから地域に出ていくイベントや出店、なおかつ介護予防につながるような足を運べる取り組みを、県に補助金申請して進めている。先日も南ヶ丘区で話したが、市民の側からもこのままではいけないという意見を多く聞く。どの地域も同じように困っているのではないか。地域で暮らし続けていくこと、私たちの取り組みを説明するとともに、必要なサービスを地域で作ってはと提案したが、日常的に足を運べる場所が継続して身近にあることで、外に出てくる可能性は非常に高い。

委員長
委員
今回、補助金事業に取り組もうと調整を進める中で、ある地区に相談を持ちかけたが、いざ話を聞くと私たちの地区は問題ないと言われた。新しい取り組みを受け入れづらいところであると感じて断念したが、地区にはそれぞれふさわしいやり方があるので、将来的に要望は上がってくるだろう。

事務局
南ヶ丘、東山、五色園は高齢化率の高い地域であり、問題意識を持って活動しておられるが、その動きやノウハウを皆さんが共有することで、市の共通財産にしたい。

委員
団地は閉鎖的な考え方が根強い印象だが、継続性を考えたときには外とつながっていた方がいい。例えば、自治会は役員が年ごとに変わって責任が途切れてしまう可能性もあり、ぜひ外とつながって継続させようと提案している。

事務局
団塊世代の高齢化で、10年もすればどの地域も高齢化問題を抱える時がくる。今、まだ若いと言われているうちに準備を始め、来るべき時に備えてどういうまちづくりをすべきなのか、次の3年間で何をして何を考えるべきなのか、第5期ゆめプランに盛り込むことで計画的に進めたい。

委員長
事務局
将来的には各地区にこの取り組みを作っていくのか。
何かしなくてはと思われる方々を組織化し、中心となって動いていただく。地域の自主的・自立的な活動の中でネットワークがつながり、共助のしくみを行政が支援していくイメージと考える。ご発言のあったポレポレの取り組みも含めた先進事例を、他の地域が学びながら進めていただきたい。

委員長
事務局
困っている方から実際に意見を聞く体制は、どのようになっているか。
地域の方から直接、あるいは社会福祉協議会や地区の民生委員を通じてお聞きするなどしている。地域支え合い体制づくり事業と同様、市が情報収集したものや国・県の取り組みをご提案する中で、皆さんがやってみようと思われる事業に手を上げていただきたい。

委員
委員
ポレポレの取り組みが、モデルケースとなって広まっていくといい。
ポレポレの取り組みに、思春期の子や青年層が関われる部分があるとよりよいのではないかと感じた。若い世代は、自分が高齢になることを想像できずに何をしたいのかわからないこともあり、普段の活動から問題を理解してもらっただけでも将来につながっていく。事業は高齢福祉課が主管となるのか。

事務局
委員
窓口は高齢福祉課だが、福祉課と連携して進めている。
対象が高齢者だけでなく、またまちづくりを切り口とするなどとてもよい取り組みだ。所管する部署の動きや意見などを取り込みながら進めていただきたい。

委員
私の住む区の高齢化率は比較的低い数値であるが、逆に自宅の周辺地域だけで見ると非常に高い。地域の方を対象に、介護保険制度のしくみなどを説明する場を設けた際には、必要と思われる方を個別にお誘いしたが、この集まりを機に地域の人たちの輪を広げていきたい。

委員
西小学区では、地域のお年寄りや子ども、その親までが参加する地域ふれあい

の会というイベントを行っている。昨年は約1,000人が参加、日ごろ顔を合わせる機会のない人たちの交流もあり、このような場を通して連携していきたい。

委員 支え合い体制づくり事業の一環として、対象となる高齢者全員の実態調査を民生委員が行っているが、この調査から何を築いていくのか。

事務局 支援が必要と思われる人に、地域包括支援センターや市が必要な支援を提供していく。

委員 65歳以上の人口は14,024人とあるが、老人クラブの加入率は47.6%にすぎない。団塊世代の高齢化もあり、市の推計ではこの先5年で高齢者が急激に増えて19,000人ほどになるといわれている中で、老人クラブが共助の担い手となれるよう積極的に会員の勧誘を行いたい。市の取り組みに老人クラブをご活用いただきたい。

委員 消防でも高齢者の問題は重要視しており、救急車で駆けつけると、おひとり暮らしでご家族と連絡が取れなかったり、その方の既往症がわからなかったりという例も多く、地域での支え合いによって解決できないかと期待している。住宅用火災警報器の設置をお願いするのは、高齢者の就寝中の火災における死傷者が非常に多いため、30年以上も前に設置が義務付けられた他国の例では、設置率の上昇とともに住宅火災の死傷者が減ってきた事実があった。高齢者世帯への警報機の普及がなかなか進まない現状で、ご意見を参考にさせていただきたい。

委員長 地域支え合い体制には拠点づくりが一つの柱であり、若い人を含めて多くの人に働きかけなければならない。特に、若い世代はお子さんと一緒に参加いただく方法もある。今後ともご協力願いたい。

事務局からよろしいですか。

事務局 勉強会を2月ごろに、第2回の委員会を3月ごろに予定している。今後、事業の推進について個別にお願いする際にはぜひご協力願いたい。

委員長 以上を持ちまして、委員会を終了します。

終了時刻 15:25